

COVID-19 感染症

臨床研究の名称	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）第5波における高流量酸素療法（Nasal High Flow）が必要となった症例の単施設後方視的検討
研究責任者の所属・氏名	研究責任者 さいたま赤十字病院 呼吸器内科 松島秀和 研究分担者 さいたま赤十字病院 呼吸器内科 西沢知剛
研究の概要	<p>【目的】今回の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行に際して、高流量酸素療法（Nasal High Flow）は重要な呼吸療法です。</p> <p>非侵襲的のため患者さんの苦痛が大きくなり、また鎮静を必要としないため挿管管理に伴う合併症が回避できます。高流量酸素療法（Nasal High Flow）の継続で軽快された方が多い一方、使用しても呼吸状態が悪化し挿管のうえ侵襲的陽圧管理療法が必要になる患者さんが一定数いらっしゃいます。今回は、COVID-19に感染した患者さんのデータを後方視的に集積し、実臨床において Nasal High Flow で呼吸療法を継続できた群・呼吸状態悪化により Nasal High Flow から挿管し人工呼吸器管理に移行した群を比較して評価します。</p> <p>【対象患者】2021年7月から2021年9月までに COVID-19 感染症と診断され、入院を要した患者さん</p> <p>【方法】上記の患者さんを対象に下記情報を収集し、解析を行います。</p> <p>【使用する情報】患者背景（症状発現日、診断日、入院日、性別、年齢、身長、体重、人種・地域、合併症の有無と治療、喫煙歴等）、入院中のレントゲン・CT 所見や自覚症状、COVID-19 に対して実施した治療の詳細と転帰等、CT 画像</p>
個人情報の取り扱い	研究実施に係る情報を取り扱う際には予め患者の個人情報とは無関係な番号を付して情報を管理する。患者の個人情報が院外へ漏れないよう十分配慮する。
問い合わせ先	<p>【研究担当者】</p> <p>所属：さいたま赤十字病院 呼吸器内科</p> <p>氏名：西沢知剛</p> <p>住所：埼玉県さいたま市中央区新都心1番地5</p> <p>電話：048-852-1111</p>

※ 研究に情報を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益を生じることはありません。上記の問い合わせ先までご連絡いただけましたら、その方の情報は本研究に利用しないようにいたします。